

中国隋唐時代の俑に関する総合的研究

小林 仁

(財団法人大阪市美術振興協会・学芸課・主任学芸員)

【研究の概要等】

墓に副葬される明器である俑は、中国美術史において重要な研究テーマの一つといえる。とくに隋唐時代の俑は、各地域の墓葬から紀年墓をはじめ豊富な出土例が報告されており、その様式変遷や地域性などを理解することが可能である。

本研究は、隋唐時代の俑について、紀年墓を中心とした出土資料の詳細な調査を行い、各時代・各地域の俑の特徴を把握しながら、様式変遷と地域性、そして制作技法や生産工房、葬送観念など多角的な視点から、隋唐時代の俑の成立と展開について明らかにすることを目的とする。具体的には、日本及び中国の第一線で活躍する研究協力者達の協力を得ながら、中国現地調査とテーマ研究を中心に、1)南北朝時代の俑からの影響、2)隋唐時代の俑の様式変遷と地域性、3)隋唐時代の俑の制作技法と生産工房、4)隋唐時代の俑に見られる葬送観念、の4つの問題に独自のアプローチを試みる。本研究は、研究代表者がこれまで実施してきた南北朝時代の俑に関する美術史的研究の成果を発展、展開させるもので、近年大きく注目されている南北朝から隋唐時期の美術史研究に新たな視点を提供しようとするものである。

【当該研究から期待される成果】

陶片類含む豊富な出土資料や窯址など関連遺跡出土の資料の調査研究を基礎とし、隋唐時代の俑の造形特質や様式変遷、さらには地域性や制作技法、生産工房の実体、葬送観念との関連等の諸問題にアプローチすることにより、隋唐時代の俑の実体とともに、その美術史上の位置づけと意義が明らかになるものと期待される。南北朝時代から隋唐時代にかけての美術の多様性が大きく注目されている現在、本研究は極めて時宜にかなったものであり、隋唐時代の美術史研究はじめ関連諸分野の研究にも新たな視点を提供することが可能であると考えている。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ 小林仁「西安・唐代醴泉坊窯址の発掘成果とその意義―俑を中心とした考察」『民族藝術』第21号,110-122頁,2005年
- ・ 小林仁「隋俑考」清水眞澄編『美術史論叢 造形と文化』雄山閣,345-367頁,2000年

【研究期間】 平成19年度 - 23年度**【研究経費】** 700,000 円

(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】 な し